



平和文化月間

平和文化賞の受賞者が決定しました

広島平和文化センターでは、「平和文化月間」の11月に、広島市を始めとする関係機関や団体との連携の下、「平和」への思いの共有につながる「文化」、いわば「平和文化」の振興を図る様々な取組を集中的に実施しています。

この取組の一つとして、広島市が募集している「青少年からのメッセージ」に応募のあった作品のうち、日常生活の中で「平和」を願う気持ちが強く感じられる作品を「平和文化賞」として表彰することとしています。

今年度は、「自分らしく幸せに生きるということ」をテーマに作品の募集が行われ、多数の応募作品の中から、次の4作品を平和文化賞として決定しました。受賞者には、平和文化月間イベントとして11月16日に開催された「広島市青少年健全育成市民大会」において、表彰が行われました。

令和6年度 平和文化賞 受賞作品

作文部門

《小学生の部》

翠町小学校6年 山内 音果さん 「広島の私から」

《中学生の部》

瀬野川中学校2年 和井 朱希さん 「自分らしくあるために」

《高校生・一般の部》

舟入高等学校2年 楊 詩雨さん 「小さなことから」

漫画・イラスト部門

青崎小学校6年 川村 優月さん 「みんながなかよしな絵」

《作文部門 小学生の部》

広島の私から

翠町小学校6年

山内 音果

私は今、学校に行って大好きな友達と遊んだり、習い事のピアノで楽しく演奏したりと、とても充実した生活を送ることができています。「楽しい」「うれしい」「大好き」がいっぱいあふれています。ですが、世界はどうでしょうか。食べ物や生活になやむ人たちが、今も大勢います。家族や友達ともバラバラにされます。そういう人たちはおびえ、苦しみながらも必死で生きてるのに、がんばって声を上げてその願いは消えてしまいます。私には、そんな生活は想像すらできません。でも私は、そんな地獄のような生活を生きぬき未来へとつないでくれた、ここ、広島で今を生きています。戦争で苦しんでいる人を救助することは難しいですが、毎年平和について学ぶことを伝え続けたいです。それが、広島の私らしく生きることです。未来へ平和のバトンを渡していきます。そしていつの日か、世界中の誰もが「楽しい」「うれしい」「大好き」があふれる幸せな人生が待っている地球へと。

《作文部門 中学生の部》

自分らしくあるために

瀬野川中学校2年 和井 朱希

自分らしくってなんだだろう。自分らしいということは、幸せということなのか。ふと考えることがある。最近でこそよく聞くこの言葉は私の悩みのタネでもある。自分らしく生きるってどういう生き方？そもそも私は自分らしく生きていくのかな。

考えているとあるニュースが目に入った。それは戦争の被害を報道するニュースだった。そこに映る人々は今を生きることに精一杯でとても自分らしく幸せに生きているとは思えなかった。そんな姿を見てみると、自分らしいということとは、平和であるということなんだと思った。

私はみんなが「自分らしく」生きられたら世界は平和へ大きく近づくと思う。現在私は演劇部に所属しておりその仲間と共に「原爆・平和」をテーマとした台本を制作している。その中で私は様々な思いや意見に触れてきた。「平和」は身近なところから。私が台本制作のために調べたことの中でそのような言葉があった。いきなり世界平和をつくろうと動くよりもまずは自分に友達、学校そして日本と平和になるよう動こうという意味だ。そしてその最初の一步が「自分らしく生きる」とことだと思える。自分が楽しく生きてよかつたと思えるような行動をすることが大切だと思う。またその過程で他人の領域に入り勝手にその他人の人生を決めないようにしなければならぬと思った。「自分らしく」が「わがまま」となってしまおうと思う。

みんなが正しく「自分らしく生きる」ことができればその輪はどんどん大きく広がりがみんなが「よかつた」と思えるような世界になるだろう。

《漫画・イラスト部門》

みんながなかよしな絵

青崎小学校6年 川村 優月

この絵には、みんなが楽しく過ごせるように、いじめがなくなるように、今も続いている戦争がなくなるように、という思いを込めて描きました。

